



クロージング (20日 中央体育館)



国際シンポジウム (20日 中央体育館)

『被災地・広野町』からのメッセージ

「あつぱれ！ふたば～未来へ」を合言葉に、昨年6月に出された『「広野」からのメッセージ』を受け、被災地住民と本音の声を交換するため、私たちは広野町に集まりました。この国際フォーラムは、町民有志と被災地で活動している専門家からなる「企画・運営会議」において、1年以上にわたり検討を重ねてきた成果であります。

国内外からの専門家やボランティアが、9月14日から20日までいわき市四倉町鬼越応急仮設住宅に宿泊し、被災地の復興に向けて重要な15のテーマについてセッションを開催しました。その間、専門家が東京電力福島第一原子力発電所を訪問したほか、パーベキュー交流大会、大茶会や昇龍太鼓の合同練習会などを通じて、応急仮設住宅の住民をはじめ多くの被災地住民と対話や交流を重ねることができました。

その結果、次のような被災地の復興に向けて重要かつ貴重な教訓を得ることができました。

- 1) 世界は今やグローバル化しており、グローバルな課題には国際的な協力体制で取り組まない限り解決策が見つからず、また国際的な理解も得がたいこと。
その意味でも今回のフォーラムが貴重な第一歩となるだけに、未来を目指しつつ、この国際フォーラムを今後とも継続実施することが強く望まれる。
- 2) 絶対的な安全、ノーリスクはあり得ない。このため私たちは多種多様なリスクに囲まれた中で賢明な選択を常に問われていること。
このため、情報をできる限り収集し、万人が自由に閲覧できる環境が整えられることを前提として、自分が得た情報に基づき自分の責任で判断することが求められる。
- 3) 今回の震災により社会はいや応なく変化しているだけでなく、時間がたつにつれて被災地はより深刻で多様な課題を抱えていること。
このため、社会が変化してしまったとの認識を共有し、より良い社会の在り方を住民と共に模索し、解決策を見つけ出そうとする試みこそが真の復興につながる鍵となろう。
- 4) 被災地の復興において、住民意見を適切に反映し実行に移すシステムとその“見える化”をはかる仕組みの構築が求められている。
そのシステムの実現は、住民と行政の相互信頼の醸成に大きく貢献すると確信する。
- 5) 被災地と被災者の受入地を含めた地域全体で考えることの重要性に関して異論はなく、課題は広い地域を巻き込んだ合意の形成にかかること。
その意味で、大きな温度差を抱える被災地の連携を探るさまざまな試みが今回のフォーラムでなされた意義は大きい。中・高生や大学生、複雑な立場から板挟み状態の若手職員など、幾つかの輪が出来つつあり、今後の活動に対する期待は極めて大きい。特に双葉郡8町村のすべてから若手職員が出席できたことは未来へ明るい希望を持たせるものとなった。
- 6) 被災地では、長期の避難と“健康への不安”などが生みだした地域社会、とりわけ子育て世代で顕著な分断と衰退、農業の再生、風評被害対策、住民数をはるかに超える作業員の増加など、従前にはなかった社会状況が生じていること。
これらの課題に対し、単にマイナスを消そうとするのではなく、ピンチをチャンスに変え、新しい秩序を求めてウィン・ウィンの関係を築くなど、プラス思考で捉える重要さに気づかされた。その実現は決して簡単ではないが、積極的に挑戦していくこととする。
- 7) 今回、初めて地元紙・地方紙・全国紙の新聞記者とテレビ記者にフランスのジャーナリストが加わり一堂に会する機会が持たれ、復興に向けてジャーナリストが果たす役割について議論が展開されたことは特筆に値しよう。
また、被災地・広野町の魅力を再発見するための“町歩き”では、町外の目からみると広野町は極めて魅力に富んでいることに今更ながら気づいた。

以上のように、国際交流を通じて世界の多様な目で見学し合うことが課題の解決に向けて極めて有意義であることを改めて学んだ。被災地・広野町に集った私たちは、今回得られた結果を踏まえ、さらに発展させ、多様な交流を進めるなどできる限りの努力を続けることとする。その際、被災地で繰り広げられている幅広い活動を世界に広く伝え、世界の課題の解決に貢献する重要性を忘れてはならない。

平成27年9月20日

国際フォーラム『被災地・広野町から考える』～“幸せな帰町・復興”に向けて～
参加者一同



5年、10年、30年後の“自分”・“我が町”を考えよう！
(17日 中央体育館)



風評被害を考える (17日 中央体育館)



広野町民のこれからの健康について
(18日 保健センター)



広野町の課題に向き合います！ (18日 中央体育館)



大茶会 (18日 ニツ沼総合公園)



ジャーナリストの役割 (18日 中央体育館)



広野昇龍太鼓と共に楽しもう (18日 中央体育館)



広野町 (被災地) の魅力を発見しよう！ (19日 町内)